



"Happiness Helps Healing"

- ・ごあいさつ
- ・10月～11月の活動報告
- ・トピックス
- ・関東 SHJ ボランティア交流会報告
- ・コラム～支援のハート 3～
- ・新コーディネーター紹介
- ・平成 26 年度収支事業報告
- ・団体概要アップデート



ごあいさつ

時の経つのは早いもので今年も残すところわずかとなりました。無事 3 期目の決算を終え、法人設立して今月 18 日で 4 年目を迎えます。多くの方のご支援のおかげで、当初の地道な足固めの上に、2 年目から活動場所が増え始め、現在 14 の病院と 7 つの施設にて活動しています。前号での報告後、新たに今年 2 月より打ち合わせをしてきた倉敷中央病院にて活動を開始しました。また、治療のために遠方より入院しなければならない場合に家族が滞在する施設、マクドナルドハウス（全国に 10 施設あるハウスのうち、せんだいハウスとおおさか・すいたハウス）のオープンハウスでイベント参加を始めました。「Donald・MacDonald・House」は公益財団法人として助成金制度を実施、まさに SHJ が任意団体として駆け出しのころに助成を受けたという経緯があります。さらに横浜「はる訪問看護ステーション」の秋祭りにてお手伝いさせていただき、いずれも年に 1 度、または不定期の活動ですが、今後、音楽会やパフォーマンスを届けていきます。活動への支援も広がり、個人会員は 120 名となりました。また企業・団体からの支援を継続いただける上に、FIT チャリティラン 2015 の支援先として選ばれ、今後の活動をさらに充実、発展させていく見通しを持つことができました。10、11 月の活動報告と 3 期事業報告、そして関東 SHJ ボランティア交流会の報告など、最後までお読み下されば幸いです。

スマイリングホスピタルジャパン



上：おとことばの読み聞かせ
by トッテカルーン
at 療育室つばさ
下：ちぎり絵ワークショップ
by Laki Ohana at 東大病院

●2015年10月～11月の活動報告

月/日	曜	活動場所	活動内容	担当者
10/3	土	マクドナルドハウス せんだいハウス	ドラムサークル	宍戸素子 千葉淳子
10/5	月	日赤医療センター 小児病棟	ペーパークラフト	室園久美
10/5	月	千葉県こども病院	ピアノ・ボーカルリサイタル&音楽遊び	矢田美麗
10/6	火	倉敷中央病院	オカリナ演奏と手遊び	中納裕見子
10/7	水	神奈川県立こども医療センター長期内科系病棟	塗り絵 コラージュ	真鍋麻里
10/7	水	東京大学医学部附属病院 北南小児病棟	モンスターになろう	佐々木優子
10/7	水	淀川キリスト教病院ホスピス 子どもホスピス	ピアノ演奏とリズムを感じよう	豊雅子
10/9	金	神奈川県立こども医療センター外科系病棟	みんなで巨大アートに挑戦!	Ouma
10/13	火	慶應義塾大学病院 6E 小児病棟	弾き語り&なんでもリクエスト	真理さん
10/15	木	慶應義塾大学病院 5S 小児病棟	ことばとおとの読み聞かせ	トッテカルーン
10/16	金	北海道大学病院 小児病棟	工作とパネルシアター	松川あつ子
10/19	月	日赤医療センター 小児病棟	読み聞かせの会	平沢ゆかり
10/19	月	淀川キリスト教病院ホスピス 子どもホスピス	ピアノ演奏とリズムを感じよう	豊雅子
10/21	水	東京大学医学部附属病院 北南小児病棟	ちぎり絵ワークショップ	Laki Ohana
10/21	水	神奈川県立こども医療センター内科病棟	モンスターになろう	佐々木優子
10/23	金	京都大学病院小児病棟	ジャグリング バルーンアート マジック	ジャグラーGT
10/23	金	神奈川県立こども医療センター外科系病棟	思いっきり歌おう	湯浅ゆう子
10/24	土	マクドナルドハウス おおさか・すいたハウス	ドラムサークル	豊雅子 北川優子
10/26	月	日赤医療センター 小児病棟	ことばとおとの読み聞かせ	トッテカルーン
10/26	月	日赤医療センター 附属乳児院	ことばとおとの読み聞かせ	トッテカルーン
10/26	月	静岡県立こども病院	絵本遊び&音楽遊び	Bon Vivant
10/26	月	大阪市立総合医療センター 小児病棟	親子で楽しむボサノバ!	Satoko & Sumie
10/31	土	横浜はる訪問看護ステーション	サクセス&パーカッション演奏会	森英記 長谷川道夫
11/2	月	日赤医療センター 小児病棟	ちぎり絵ワークショップ	Laki Ohana
11/2	月	千葉県こども病院	ピアノ・ボーカルリサイタル&音楽遊び	矢田美麗
11/2	月	大阪市立総合医療センター 小児病棟	ピアノ演奏とリズム遊び	豊雅子
11/4	水	神奈川県立こども医療センター長期内科系病棟	思いっきり歌おう	湯浅ゆう子
11/4	水	東京大学医学部附属病院 北南小児病棟	からくりペーパークラフト	天羽ひさ子
11/4	水	淀川キリスト教病院ホスピス 子どもホスピス	ピアノ演奏とリズムを感じよう	豊雅子
11/9	月	日赤医療センター 小児病棟	お話の世界で遊ぼう	近藤麻智子
11/10	火	慶應義塾大学病院 6E 小児病棟	みんなで巨大アートに挑戦!	Ouma
11/13	金	神奈川県立こども医療センター外科内科系病棟	塗り絵 コラージュ	真鍋麻里
11/16	月	日赤医療センター 小児病棟	弾き語り&なんでもリクエスト	真理さん
11/16	月	日赤医療センター 小児病棟	似顔絵クロッキー	水野ぶりん
11/18	水	神奈川県立こども医療センター長期内科系病棟	からくりペーパークラフト	天羽ひさ子
11/18	水	東京大学医学部附属病院 北南小児病棟	英語で遊ぼう&英語でマジック	クラウディ
11/18	水	京都大学病院 小児病棟	コミック大道芸	コミックジャグラーのず
11/19	木	慶應義塾大学病院 5S 小児病棟	みんなでボサノバ!	Satoko & Friends
11/19	木	淀川キリスト教病院ホスピス 子どもホスピス	ピアノ演奏とリズムを感じよう	豊雅子
11/20	金	北海道大学病院 小児病棟	音楽会	米澤倫子
11/24	火	宮城県立こども病院	マジック ジャグリング&バルーンアート	NIKONIKO 大使ガイ
11/25	水	石巻赤十字病院 小児病棟	マジック ジャグリング&バルーンアート	NIKONIKO 大使ガイ
11/25	水	大阪市立総合医療センター 小児病棟	ピアノ演奏とリズム遊び	豊雅子
11/27	金	神奈川県立こども医療センタークリーン病棟	子どものためのジャズ&ブルース	石橋和子
11/30	月	日赤医療センター 小児病棟	子どものためのジャズ&ブルース	石橋和子
11/30	月	静岡県立こども病院	大道芸&コメディ寸劇	大道芸人あまる
11/30	月	大阪市立総合医療センター 小児病棟	ピアノ演奏とリズム遊び	豊雅子

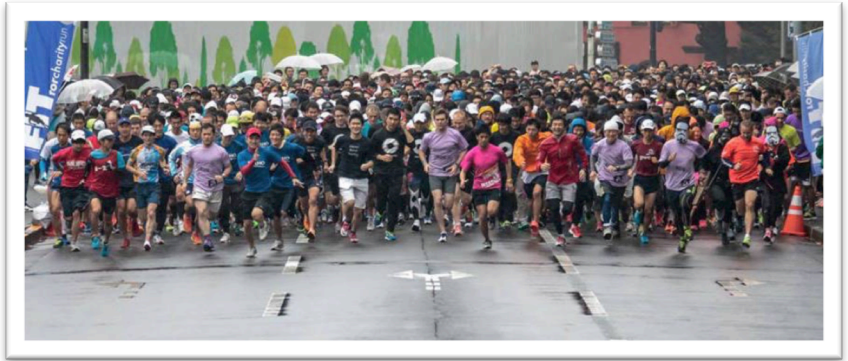


●トピックス

- 10月3日(土) 仙台マクドナルドハウス・オープンハウスに参加しました。
- 10月6日(火) 倉敷中央病院で活動を開始しました。
- 10月16日(木) 平成26年度総会を開催しました。
- 10月19日(月) 東京都へ平成26年度事業報告を済ませました。
- 10月23日(土) 大阪吹田マクドナルドハウス・オープンハウスに参加しました。
- 10月23日(土) 文京シビックセンターにて関東SHJボランティア交流会を開催しました。
- 11月5日(木) FITチャリティ・ラン2015の支援先団体に選ばれ、説明会・懇親会に参加しました。
- 11月6日(金) FCAジャパンCSV Weekly Heads Upに参加しました。
- 11月8日(日) FITチャリティラン2015とCEOセッション(明治神宮外苑にて)に参加しました。
- 11月19日(木) 「TOOTH FAIRYパートナー会議」「医療的ケアを必要とする子どもと家族の支援を考えるシンポジウム」に参加しました。

●FITチャリティ・ラン2015

FITチャリティ・ラン(英名: Financial Industry in Tokyo For Charity Run)は、金融サービスおよび関連事業を展開する企業で働く有志が設立運営し、認知度等の問題により十分な活動資金を確保できていない団体への寄付を通じて、社会貢献を行っています。2005年に活動を開始し、今年は他7団体とともにスマイリングホスピタルジャパンが支援先として選ばれました。



FITチャリティ・ラン/撮影:村越 将浩

●ボランティア交流会報告

10月23日(土)、文京シビックセンターにて第3回関東スマイリングホスピタルジャパン・ボランティア交流会を開催しました。神奈川、東京、千葉で活動するアーティスト38名のうち20名、アシスタント6名、事務局スタッフ6名が参加しました。

日頃の病院、施設訪問は個々に行き、他のメンバーと活動について語り合う機会がなかなかないため、一堂に会した意見・情報交換の場として交流会を不定期に行っています。

6月より、各病院担当のアシスタントボランティアが活動の付き添いを行うようになったため、アシスタントの紹介とアーティストとの顔合わせが大きな目的でした。活動後の報告書の作成、提出方法などの周知、その他事務連絡のあと、全員が自己紹介と活動を通して感じていることを発表しました。それぞれの思いを互いに聞き、話し合うことで気づきや学びがあり、ヒントを得たり共感も生まれたり、今後の活動に生かされる貴重な時間でした。

スピーチの中より幾つかを紹介します。今後のニュースレターでも順次掲載していく予定です。

なお、来年3月には全国交流会を開催します。

水野ぷりん (絵本画家、挿絵画家、イラストレーター)

ご希望の方のベッドをまわって、肖像のクロッキーをしております。

10分程度で描いて、さしあげることしております。

お子様だけのときもあれば、お母様、お父様と3人のご家族のときもあります。

気をつけておりますのは、治療中の子どもたちですから、チューブがつながっていたり顔がむくんでいたりしますが、その子の元気な姿を想像しながら、でもその子の顔立ちに似ているように描くことです。お母様とおしゃべりしながら描くのですが、元気なころの写真をさしだされ、「ほんとはこんな顔なんです」とおっしゃる方もおりました。

「かわいらしく描いてほしい」という親ごさんの気持をひしと感じました。

きっとどのお母様がたも同じでしょう。

その子のいちばんいい表情を描けたらいいと思います。

そして、プロの絵描きのモデル体験が、入院中のちょっとしたよい思い出になってくれればいいなあと思っています。ベッドの横に飾ってくださったりすると、本当に嬉しいです。

また、気がついたのですが、わたしが描きだすと、泣いているお子さんも泣き止んでわたしの手をじいっとみつめていたりします。

手の動きが興味深いのでしょうか。

「なにしてるのかな～僕の顔??」

とでも思うのか、笑顔になってくれたりします。

これもまた、嬉しいことです。



金野恵子 (俳優、声優)

SHJのボランティア活動に紙芝居音楽隊として参加させて頂き2年
余り経ちました。

最初は静かな病室で声を張ることの抵抗、医療機器に対する無知さ
からくる恐怖心、看護師さん達のお仕事の邪魔になるのではと
不安がいっぱいでした。

重症心身障害児施設へ初めて行った日の衝撃は忘れられません。
反応が全くなかったり、治療の為不自然な姿で寝かされていたりす
る子ども達…どう伝えていいか迷いました。
どこに向かって語りかけているのか目的感がなくひたすら一生懸命に
語るといふ、経験したことのない不思議な感覚でやり終えたとき、
看護師さんが、ちゃんと聞いてましたよ、反応してましたよ、
私達にはわかるんです、と言って下さった時は本当に嬉しくホッと
致しました。この経験から、日常に於いてもどんな時でもどんな相手
でも、語り続けていけば必ず通じるその大切さを
重心の子ども達から学びました。

今も、紙芝居のクライマックスで大きな声を出しそうになるのを抑え
たりアーティストとして完全に表現出来ないもどかしさを感じるこ
とがありますが、その分目の前の子どもに精一杯温もりを感じてもらえ
ることで補っています。

そして、付添のお母様達の優しい笑顔も私達のパワーになります。
子ども達が笑うとお母様も笑顔になる。病気で親孝行が難しい子ども達
ができる親孝行のひとつは笑顔！そのお手伝いをさせて頂けているこ
とが嬉しいです。

ラストの歌の時はいつも「良くなりますように」「楽になりますよう
に」との強い思いを込めたよく効く透明の粉薬を病室の隅々にまでき
て歌っています。
今まで来た薬は自分に戻ってきています。
日常で辛い時、落ち込んだ時に、病と闘っている子ども達の姿を思い出すと何故か元気になるのです。
だから、子ども達には感謝でいっぱいです。
ありがとうございます！



紙芝居ミュージカル隊もっくんぽっと
上下とも中心が金野恵子さん



Ouma (オーマ/元獣医師・細胞アーティスト)



臨床獣医師だった私が、初めての担当患者さんが亡くした時、お手紙と一緒にその
子の絵を描いてご家族に送りました。ご家族からはお返事のお手紙をいただき、
本当に喜んでもらったのが、アートを志したきっかけです。
獣医の仕事は、治療ではなく「ご家族の心を癒すこと」です。

現在、細胞をモチーフとした体験できるインスタレーション作家として活動する中
でも、作品に触れる人たちが、思わず息を呑むほど感動する瞬間をつくりたいと思
っています。作品から離れた後にも、心に残り、希望や支えになるように。作品を
通じて、人への「癒し」を提供できるように。それが、私が自分のアートに込めた
想いです。

幼稚園に入るか入らないかという年の頃、私は川崎病で
1か月半入院し、その時の病院スタッフのおかげで、
病院が好きになりました。医療に興味を持って、獣医になっ
たのも、その時の経験が生きているのだと思います。

病院という場所が、入院する人や家族だけでなく、訪れる人、
関わるスタッフにとっても幸せを感じられる場所であるよう
に、活動をつづけていきたいと思っています。

「医療の現場」という私が幼い頃から関わっていた分野で、
このような活動ができるという貴重な機会をいただき、
代表の松本さんをはじめ、スマイリングホスピタルジャパン
の方々には、本当に感謝しています。
ありがとうございます。



●コラム～支援のハート3

東京都立永福学園（肢体不自由特別支援学校）
教諭 松本 健太郎

入院中の子どもたちの中には、濃厚な医療的ケアを必要とする重篤な状態にある子どもたちがいます。そのような子どもたちが主体的に参加できる楽しい活動を提供することは決して簡単なことではありません。しかし、日常生活の中で子どもたちがどのような困難さに直面しているのかを想像することでヒントを得ることができます。



最初に挙げられるのは状況把握の困難さです。上記のような子どもたちは、日常生活のあらゆる場面で受身的状況におかれています。その理由として、自分だけでできることが少ないこと、自分から伝えることが困難なこと、外から必要な情報を得ることが困難なことが考えられます。見えにくさや聞こえにくさがあり、さらに注目したいものに顔を向けることや手を伸ばして触ってみることができない場合、隣に誰がいるのか、今どこにいるのか、これから何をするのかなど、普段私たちが何気なく得ている情報を得ることができない可能性があります。そのため、状況の変化に対応した行動が起これないうちに、他者によって活動が進められてしまうことが多いといえます。日常生活を少しでも主体的に送るためには子どもたちが外からの情報を取り入れやすくするような支援が必要です。病室でもすぐに始められるのは、言葉でゆっくり丁寧に、自分は誰でこれからどのような活動をするのか伝えることです。話すとき可能であれば、手を握るなどの身体的な手がかりがあると、自分に話しかけているのだということを理解しやすくなります。活動の予告として、活動に使うものをじっくり見てもらったり、触ってもらったりすることも重要です。何かを見せるときには、背景を整理し、コントラストをはっきりさせるなどして見やすい工夫をします。見えにくさがあっても色は分かることが多いので、赤や黄色など鮮やかな色である程度面積があるもの（大きな布など）は、手がかりになります。状況把握ができると、子どもは、その活動に対し心や身体を準備すること、いわゆる構えることができます。構えができることで自分の行動を切り替え、活動への主体的な取り組みを可能にするといえますが、活動への期待感や注目が構えに含まれていると考え、構えることですでに活動に参加しているともいえます。

次に挙げられるのは、無力感の形成です。懸命に外に向かって働きかけているにもかかわらず、周りに伝わらず、応答がないことを繰り返し体験すると、無力感が形成されます。自分から伝えることが困難な子どもたちは、常にその危険にさらされています。一般に、無力感は応答性で防げるといわれ、子どもの微細な発信を読みとり、すぐに「何？ どうしたの？」と返答していくことが重要です。その際に「〇〇が好きなの？ 〇〇したいの？」など、その子どもの気持ち子どもに代わり言葉にして伝えるとさらに効果的です。内容が間違っても構いません。母子間のコミュニケーションを見ても、最初から完璧に赤ちゃんの気持ちが分かるお母さんはいないはずで、むしろ、間違えながらもやりとりを重ねることで質が上がっていきます。大事なものは、子ども自身の働きかけに常に答えてくれる環境です。そして、子どもが状況把握し反応するまで十分時間をかけることも大切です。この時間は、かかわり手にとっても次のかかわり方を考える上で大切な時間になります。

以上、子どもが主体的に活動に参加するためには、状況把握を支える工夫、応答性のある環境、そして反応を待つ十分な時間が必要であると述べてきました。これらに留意し子どもと丁寧にやりとりしながら活動をすることで、かかわり手も成長し、質の高い活動を準備できるようになります。



●新コーディネーター紹介（千葉地区 2015年9月より活動）

千葉地区コーディネーター 矢田 美麗



こんにちは！千葉地区コーディネーターの矢田美麗です。9月より、千葉県こども病院にて活動を開始いたしました。

スマイリングに登録してからまだ数ヶ月。7月頃にスマイリングのFacebookを見つけて、そのままホームページにすぐに飛んで、迷わずその場で「アーティスト登録ボタン」を押していました。

私は子どもが2人います。次女は今1年生。長女は、2011年11月、千葉県こども病院にて「脳幹部脳腫瘍（グリオーマ）」と診断され、余命1年と宣告されました。その後、2年間の闘病の末、2013年10月31日、お空へと旅立ちました。「グリオーマ」というのは「グリア細胞」に出来た「オーマ（腫瘍）」のことで、脳幹に出来てしまうと手術も不可能、現在確立されている治療法は皆無で、唯一放射線治療が主な治療になりますが、腫瘍は一時的に縮小するも、その後再び増大してしまいます。

娘の病気が見つかる前、私は子ども2人を連れてリトミック活動を行っていました。子どもたちを集め、音遊び、手遊びをしながら、30分ほど活動をします。その頃から長女は何となく本調子ではありませんでした。病気のことを露知らずに連れまわしてしまいました。

病気が見つかった時、私は自分を責めました。子ども連れで音楽活動などするものではない。なぜもっと他の子どもたちでなく、目の前の我が子と一緒に遊んだり笑ったり工夫しなかったのか。なぜ、腫瘍になったのが、娘であり自分ではなかったのかと。

私だけでなく、病気や障がいを抱えた子どもの親御さんは、恐らくほとんどの方が、同じように、自分を責められるのではないのでしょうか。子ども1人健康に育てられなくて（健康に産めなくて）、自分が悪かったのか、育て方が悪かったのか、自分の何がいけなかったのかと。しかし、きっとそうではないのだという出来事が、このボランティア演奏活動の中でありました。

スマイリングとしての活動は9月からなのですが、その前に私が1人で個人的に、ボランティア演奏を行ったことがありました。6月末日のことでした。私はどうしても、娘が入院していた6階の西病棟に入りたくて、以前からお願いをされていて、やっと叶ったのでした。

プレイルームでは小さい子から親子連れ、車いすの子どもさん、その他6～7人が集まってくれました。手遊びや指遊びをしながら数曲弾き語りをして演奏は終了。その後プレイルームに来られなかった子の為に、病室を回ります。最初の病室には当時の娘と同じように、頭に包帯を巻いている女の子がいて、泣いていました。包帯を巻いていたので、傷が痛むのかなと思っていたのですが、「おうたききた〜い」と小さいか細い声で話したのが聴こえました。そうか、聴きたかったのか！と私は思い、「何か聴きたい曲ありますか？」と聞いてみました。すると、「トトロ」と答えました。トトロを1曲歌い終わり、静かになりました。女の子は、一瞬泣き止みましたが、「もったききた〜い」とまた泣いてしまいました。

でも、ごめんね、他の病室にもいかななくてはならないから、きっとまた来るね！絶対また来るね！そう心の中で叫び、病室を離れました。

その日のことが今でも頭から離れません。そしてその数日後、病院側から、その日の感想文が送られてきました。何行か書かれている感想の中に、1つだけ、全部ひらがなだけの文字で書かれた感想がありました。「おうた、たのしかったです。おうた、またききたいです。」

私はその一文を見て涙が出ました。きっと、あの包帯を巻いていた女の子だ。勝手ながら私はそう思い、涙が出ました。それはまるで、我が娘がそう言ってくれたような、そんな気がしたのでした。

そして、やっと自分で自分を許すことが出来ました。私があ頃、娘を連れてリトミックに行っていたのは、間違いではなかったのかなど。少なくとも私は娘の前でピアノを弾いたし、娘の前で歌も歌ったし、手遊びもした、工作もした。それが出来たのは、娘がきっと聴きたいと、言ってくれたからなのかと、そんな気がしました。それ以外では娘の前で自分がピアノの練習をした事はなかったから。娘の前では練習できない、練習してはいけないと思っていたから。

だからあのリトミックの活動で、私は、娘に少なくとも自分の音楽を少しでも聴かせてあげる事ができていたのだと、やっと、そう思うことができました。

病気になった子どもさんを持つ親御さんは、きっと自分を責めます。でも、親御さんのせいではありません。



ご自分を責めなくてもいいのです。ごめんねと、子どもさんに謝らなくてもいいのです。ごめんね、ではなく、ありがとう。
 そう子どもさんに伝えて欲しい。
 そんなメッセージが、スマイリングの活動で伝えられたら嬉しいです。

千葉県こども病院では、すべての病棟を私が一通りアーティストとしてまわらせていただきました。
 今後千葉まで活動に来てくださる他のアーティストさんたちには、病棟を知ることができた私から「千葉地区コーディネーター」として出来る限りのサポートができればと思っております。
 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



●子どもたち、お家の方々、現場スタッフの方々からの声を一部紹介します。

「いつもすごいものをみせてくれ、たのしみにしています」「毎日来てほしい」（子ども）「今週はどなたかな、と楽しみにしています」「マンネリや制限が多い環境の中、イベントはとっても楽しみです」（母親）「笑ったことのほとんどなかった子どもが活動中笑顔になっていました」（看護師）「病室にこもりきりだった子どもが参加したときはびっくりした」「手足を自分で思うように動かせない方もいますが、活動して下さる方々の楽しい雰囲気伝わって楽しめているのだと思いました」（重症心身障害児施設保育士）

●平成26年度（平成26年10月1日～27年9月30日）収支事業報告

収入			
会費			660,000
寄付金	FCA ジャパン	1,000,000	5,977,492
	日本歯科医師会 日本財団	2,500,000	
	在日米国将商工会議所	1,500,000	
	個人・団体	977,492	
事業収益	FIAT イベント		58,580
利息			662
経常収益合計			6,696,734
支出			
事業費	謝金	1,677,309	3,622,847
	業務委託費	450,000	
	旅費 交通費	621,864	
	抗体検査 保険料	107,176	
	楽器 材料費	85,974	
	印刷費 その他	680,524	
	管理費		
経常費用計			3,868,062
当期経常増減額			2,868,062
前期繰越金			4,275,278
次期繰越額			7,143,340

事業費うちわけ

①病棟や個室を訪問する事業	2,417,843
②在宅児・者を訪問する事業	0
③病院や施設のホール等で芸術鑑賞会などの会を開く事業	81,042
④普及啓発及び情報発信事業	1,123,962
⑤その他目的を達成するために必要な事業	0
合計	3,622,847

活動は多くの方のご寄付と会費により行っています。
 紙面の都合上、ご寄付くださった方や会員の方のお名前は割愛させていただいていますが、匿名を希望されない方のお名前は、ホームページに掲載しています。
 今後もより充実した活動を、よりたくさんの方の入院児、入所児、そして今後は在宅を余儀なくされている子どもたちへ届けます。そのため、みなさまからの継続的な支援が必要です。引き続き、よろしくお願いいたします。お近くの方へ、スマイリングホスピタルジャパンの活動を紹介していただき、支援のお誘いをしていただけたら幸いです。

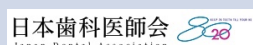
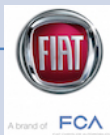
スタッフ一同

●紙上作品展●



●スマイリングホスピタルジャパン概要(2015年11月30日現在)

名称	特定非営利活動法人スマイリング ホスピタル ジャパン (略称: SHJ)				
設立	任意団体として 2012年2月25日 法人設立 2012年12月25日				
所在地	〒168-0072 東京都杉並区高井戸東3丁目3番15-308 電話/Fax: 03-4296-5692 その他連絡先: 090-8894-2640				
活動目的	入院闘病中の子どもたちが、わくわくするような楽しい時間を繰り返し持つことで、闘病意欲や生きる喜びを持ち続け、回復に向けての活力を得られるよう、QOLの向上に寄与することを目的とする。				
活動内容	美術、音楽、マジック等のプロの芸術家が小児病院の病棟、病室を訪問し、クラフトワークショップ、マジック、音楽会などを催す。子どもたちが活力や自信を取り戻せるように、作る、手品を覚える、一緒に歌う、など参加型の活動にする。見通しを持って楽しみにできるように、定期的な活動とする。 活動例: 2時間の訪問時間中、前半は病室を出られる子ども対象に病棟プレイルームにて集団の活動、後半は病室、病床にて活動可能な子どもと個別活動をする。				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問 一人ひとりを大切に。 ・参加型活動 受身ではなく子ども自身が主体的に。 ・定期訪問 見通しを持って活動を楽しみにできるように。 ・本物のアート 質の高いクリエイティブな活動を。 				
活動場所	神奈川県立こども医療センター各病棟 神奈川県立こども医療センター肢体不自由児施設 重症心身障害児施設 日本赤十字医療センター小児病棟 京都大学医学部附属病院小児病棟 日本赤十字医療センター附属乳児院 宮城県立こども病院各病棟 石巻赤十字病院小児病棟 大阪市立総合医療センター各小児病棟 療育室つばさ 慶応義塾大学病院各小児病棟 淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院 静岡県立こども病院各病棟 北海道道立子ども総合医療・療育センター 北海道大学病院小児病棟 東京大学医学部附属病院各小児病棟 千葉県こども病院各病棟 倉敷中央病院 ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいハウス/おおさか すいたハウス はる訪問看護ステーション				
役員	代表理事	松本 恵里	理事	高橋 精一	
	副代表理事	三原 典子	理事	谷口 幸路	監事 神津 理絵
地区 コーディネーター	北海道: 米澤倫子	仙台: 穴戸素子	石巻: 千葉淳子	千葉: 矢田美麗	
	京都: 田久朋寛	大阪: 西 純江	静岡: 鈴木知子	東京・神奈川: 松本恵里	
	岡山: 三好祐也	統括コーディネーター: 三原 典子			
事務局 運営ボランティア	13名	アーティスト ボランティア	70名	活動アシスタント ボランティア	6名
正会員	15名	サポート会員	120名 7団体		
E-mail	info@smilinghpj.org				
ホームページ	http://www.smilinghpj.org				
銀行口座	ゆうちょ銀行 名義: 特定非営利活動法人スマイリングホスピタルジャパン 記号: 10090 番号: 74039541 みずほ銀行 名義: 特定非営利活動法人スマイリングホスピタルジャパン 支店: 浜田山支店 預金種目: 普通預金 口座番号: 1950697				
寄付	延べ 110 件				
協賛	FCA ジャパン株式会社 日本歯科医師会 日本財団 在日米国商工会議所				



サポート会員、アーティスト・事務局・活動アシスタント・コーディネーターボランティア募集中!
詳しくはホームページをごらんください。

～昨年度を振り返って、そしてこれから～

2月に慶応義塾大学病院で開始したのを皮切りに、8つの病院と3つの施設が新たな活動場所として加わりました。芸術の専門家による心がときめくような定期、参加型活動がSHJならではの、と好評をいただいています。多様な困難さに寄り添い工夫を惜しまないアーティストたち、そして活動を支える各地区コーディネーター、各病院アシスタント、そして事務局を含めたすべてのボランティアが一丸となって、闘病中の子どもたちと豊かな時間を共有します。子どもたちから学び、子どもたちから勇気をもらい、感謝する毎日です。さらに、必要性が高いにもかかわらず、これまで着手できなかった退院後在宅を余儀なくされている子どもたちへの訪問(事業②)に向けて準備が始まりました。本年同様、来年もスマイリングホスピタルジャパンの活動を支えてくださるよう、どうぞよろしく願いいたします。

スマイリングホスピタルジャパンスタッフ一同